



同時通訳レシーバーを耳にあてて



会議二日目に、市内の中学生七十七人が参加して開かれたシンポジウム。軍縮を身近な問題として考えてもらおうと、世界の最前線で活躍しているかたがたと対面し、質問タイムも設けられました。

中学生たちも参加したぞ。

次世代につなぐ平和 世界に届け、熱いメッセージ

市内の中学生が、心のこもったメッセージを軍縮会議参加者の前で発表。世界に平和を呼びかけました。



鈴木さんと五十嵐さん

生徒会で地雷撲滅運動に取り組んでいる豊岩中の鈴木一斉さん、五十嵐早苗さん。いまだ世界の至るところで地雷の被害を受けている人たちがいます。その悲しい事実を知ったときから、豊岩中の地雷撲滅運動は始まりました。埋まっているたくさん地雷を一日でも早く取り除くこと、そして、人間同士で憎み合い、傷つけ合おうとする気持ち、すなわち「心の中の地雷」を取り除くことが、二十一世紀を生きる私たちに託された使命だと考えています。



宮田さん

ふるさと学習で土崎空襲について学んだ宮田千鶴さん(土崎中三年)……五十五年前の土崎空襲が私に教えてくれたもの。それは、明日が終戦だとわかっていても徹底的に破壊し殺し尽くす、戦争の現実でした。世界平和のために私にできること。ひとは、ふるさと土崎に住む一人として、戦争の悲惨な事実や暗い出来事を真剣に学び引き継いでいく継承者となることです。そして、もうひとつは、世界の中の一人として考えることです。一生懸命考える「知恵」、考えたことに積極的に取り組む「努力」、自分の利益ばかり考えず我慢する「忍耐力」。この三つのキーワードを実現することを提案します。

軍縮会議に参加して



左から豊岩中の今野修さん(1年)鈴木一生さん(2年)鈴木竜太さん(3年)

秋田県出身の明石さんたちが世界で活躍しているのを見て感激しました。国連の職員として仕事をするために地道な努力をしたことを知り、勇気づけられました。自分たちももつと語学力をつけて、国際的な舞台で立派に自分の意見を話せるように勉強したいと思いました。また、土崎空襲の発表を聞いて、戦争をめぐる出来事が身近に感じられました。今回ほど、武器と呼ばれるものが世界からなくなればいいと思ったことはありません。僕たちが行っている地雷撲滅運動と合わせ、もつと世界のことを理解していきたいです。



子どもたちの発表に真剣に耳を傾けます